

パリで出会った2人が奏でる、濃密なひととき。
デュオの名作・フォーレ《ヴァイオリンソナタ第1番》
華麗なラヴェルの《ツィガヌ》、そして静かに情感をたたえた、
ショーンソン《詩曲 Op.25》。
ピアノソロには、リスト、ラフマニノフ、バルトークなど、
各公演ごとに異なる作品を。
音の物語へ、あなたを誘う。

継 が れ ゆ く 声

藤田凜太郎

松下竜太郎

PIANO

VIOLIN

Wed.
大分公演 08.20
19:00開演 18:30開場
J:COMホルトホール大分
(小ホール)
一般 ¥2500 学生 ¥1500

Sat.
東京公演 09.13
14:00開演 13:30開場
CHABOHIBA HALL
一般 ¥3000 学生 ¥1500

Sat.
札幌公演 09.20
14:00開演 13:30開場
ル・ケレス南円山
ミュージアムホール
一般 ¥3000 学生 ¥1500

ご予約・お問い合わせ
husgolshib12@gmail.com



後援

一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ビティナ)

一般社団法人日本音楽協会

継がれゆく声

大分公演

J:COMホルトホール大分
(小ホール)

JR大分駅徒歩2分

〒870-0839

大分県大分市金池南1丁目5-1 1階

東京公演

CHABOHIBA HALL

JR立川駅よりバス「古民家園東」下車徒歩2分、
「砂川九番」下車徒歩4分
西武拝島線東大和市駅よりバス「砂川九番」下車徒歩4分

〒190-0002

東京都立川市幸町4丁目17-1

札幌公演

ル・ケレス南円山ミュージアムホール

地下鉄東西線円山公園駅徒歩15分
JR北海道バス
「南6条西24丁目」徒歩6分

〒064-0807

北海道札幌市中央区南7条西22丁目1-22

師の光、弟子の炎～フォーレとラヴェルの対話～

19世紀末から20世紀にかけて、フランス音楽の美と精神を継承し、新たな地平を切り拓いた二人の作曲家
ガブリエル・フォーレ、モーリス・ラヴェル。

本公演では、彼らの作品を通して、時代と美意識のバトンが静かに手渡される瞬間を辿る。

1897年、若きラヴェルはパリ音楽院でフォーレの作曲クラスに入門。

すでに独自の語法を持ち始めていた彼に、フォーレが与えたのは、抑圧ではなく「自由」だった。
ふたりの関係は、単なる「師弟」ではなく、深い敬意と芸術的距離感に支えられていたのであった。

フォーレが1875年に書いた《ヴァイオリン・ソナタ第1番》は、若き日の抒情と内面的な情熱が結晶した作品。
一方、ラヴェルが1924年に書いた《ツィガース》は、超絶技巧と異国情緒が火花のように舞う彼の円熟を示す傑作。
同じ1924年——フォーレはその生涯を閉じ、ラヴェルは《ツィガース》で新たな頂点を刻んだ。
これは偶然ではなく、ある世代の繁栄と次なる響きの誕生が交差する象徴的な時間であった。
静と熱、受け継がれる音と変わりゆく響きをふたりの音楽で奏でる、
“継承と変容”のドラマに耳を澄ませて。

松下竜太郎

東京都出身。

2歳半より北海道、スズキ・メソード札幌にてヴァイオリンを始める。

桐朋学園大学音楽学部を卒業。

その後フランス、

Ecole Normale de Musique de Parisにて第二課程を修了。

現在同大学、第三課程に在籍中。

これまでに山同直樹、深沢蘭子、大井真智子、豊田耕児、豊田弓乃、

Regis Pasquierの各氏、室内楽をJulian Gernay氏に師事。

藤田凜太郎

大分県出身。

6歳よりピアノを始める。

大分大学教育福祉科学部附属中学校、

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学を卒業。

これまでに荒金理恵、手塚真人、永野栄子、植田克己、江口玲、
菊地裕介、吉田友昭、浜野与志男、萩原麻未、松原勝也の各氏に師事。

現在、Ecole Normale de Musique de Parisにて
Jean-Philippe Collard氏に師事。